

登録コード	A4C05200	開講年度	2026				
授業科目	造園・緑地計画学				担当教員	上原 三知 他	
英文授業名	Landscape Architecture and Planning					大窪 久美子	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限		対象学生
講義室	農学部23番講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2025アカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】2. 【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。				⇔	造園学については、住居と庭、日本および西洋の庭園の歴史と展開、都市と緑地・公園の成り立ちに関する専門的基礎知識を習得できるようになります。造園学において緑地を計画し、管理運営していくためには、対象地域の自然環境を把握し、できるかぎりその土地本来が有しているポテンシャルを理解することが必須となります。本講義では、まず自然環境の基盤要素としての植生について理解を深め、さらに群落レベルでの捉え方、また自然環境と人との関係に関する生態学的な基礎的知識を習得できるようになります。	
	【2025年度以降カリキュラム対象】3. 【情報分析・発信力】 論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。				⇔	造園学については、住居と庭、日本および西洋の庭園の歴史と展開、都市と緑地・公園の成り立ちに関する専門的基礎知識を習得できるようになります。造園学において緑地を計画し、管理運営していくためには、対象地域の自然環境を把握し、できるかぎりその土地本来が有しているポテンシャルを理解することが必須となります。本講義では、まず自然環境の基盤要素としての植生について理解を深め、さらに群落レベルでの捉え方、また自然環境と人との関係に関する生態学的な基礎的知識を習得できるようになります。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	前半の造園学(ランドスケープ・アーキテクチャー)部分では、造園学の基本を理解するとともに、さまざまな事例をふまえながら理解を深めます。講義の後半では緑地を計画するために必要な生態系の基盤となる自然環境、特に植生について理解を深めます。さらに群落としての捉え方、特に調査方法や種組成の解析方法について事例を挙げながら解説します。						
(5)授業計画	1. 住居の発達と庭園（上原） 2. 日本の庭園のはじまり（上原） 3. 日本の庭園の展開（上原） 4. 日本の都市の歴史と緑地（上原） 5. 西洋の庭園のはじまり（上原） 6. 西洋の庭園の展開（上原） 7. 西洋の都市の歴史と緑地・西洋の公園の成り立ちと展開（上原） 8. 緑地計画としての自然環境（大窪） 9. 緑地としての植生の捉え方1（世界の植生、日本の植生、規定要因）（大窪） 10. 緑地としての植生の捉え方2（原生的自然・二次的自然、植生学、植物社会学、植生図、緑の国勢調査）（大窪） 11. 群落の捉え方1（測度・優占度等）（大窪） 12. 群落の捉え方2（測度・優占度等）（大窪） 13. 種組成の捉え方1（生活型）（大窪） 14. 種組成の捉え方2（生活型、繁殖型、受粉型）（大窪） 15. 種組成の捉え方3（生活史、環境指標性、生態系としての重要度）（大窪） 16. 期末試験						
(6)自主学習の指針	講義のはじめに参考になる論文等を紹介しますので、自主学習に活用してください。随時、講義の中で訪れてほしい場所等を紹介します						
(7)成績評価の基準	秀：授業の達成目標水準から見て卓越している。（90点以上） 優：授業の達成目標水準よりかなり上にある。（80～89点） 良：授業の達成目標水準よりやや上にある。（70～79点） 可：授業の達成目標水準にある。（60～69点） 不可： 授業の達成目標水準にない。（59点以下）						
(8)事前事後学習の内容	次の講義までに、前回に説明した内容や課題等を復習してください。						
(9)テストやレポートの予定	授業中に小レポートを書いてもらう。あるいは小レポートを宿題にする。最後に定期試験を行う。						
(10)成績評価の方法	小レポート（30点），及び試験（70点）により、評価を行う。合計100点で評価を行う。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	上原：基本的には、講義中、終了後に対応します。大窪：随時連絡してください。						
(12)履修上の注意	遅刻しないこと。期末テストを必ず受験してください。 この授業は、すべての回に出席することを前提とします。ただし、「信州大学における授業の出席に関する要項」第4が規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席した場合を含み、欠席回数が3回以上						

(12)履修上の注意	になると、授業の達成目標に到達することができないため単位が認定されません。
【教科書】	特に無し。 資料等をeALPSで掲載
【参考書】	随時紹介。 加藤 允彦，仲 隆裕他，庭園史をあるくー日本・ヨーロッパ編,昭和堂 武田史朗，山崎亮，テキスト ランドスケープデザインの歴史,学芸出版社 「新版生態工学」大窪久美子ほか、朝倉書店 「日本の植生」宮脇昭，小学館